

山口カトリック教会報

サビエルの鐘

第46号



特に特別なクリスマス

ルイス・カンガス 神父

私が子供の時にスペインに内戦がありました。その時には本当に食べ物がありませんでした。ところがどうしてかわからないけれど、両親は毎晩うつつわいっぱいのチョコレートとパンひと切れを、4人の兄弟に渡してくれました。私たちはそれを喜んで食べました。それを見ている両親は、自分たちは食べないのにとてもうれしそうでした。おいしいものを食べている私たち子供より、もっともって喜んでいました。今でも忘れられません。

これは私にとっての愛の悟りでした。愛する人が喜ぶと、自分のことでうれしいよりもっともってうれしい。幼稚園の親子に会う時、子供を褒めると、親は自分が褒められる以上に喜びます。愛は、自分を愛するより、愛している人を大切にします。神は私たちを愛し、神でありながら人間となり、私たちの苦しみや喜びを神ご自身が感じて

おられます。だからイエス様は私たちが喜んでい

る時にとても喜びます。今、ウクライナ、パレスチナのことで皆が悩んでいます。今年こそ、クリスマスに特に意味があります。イエス様は戦争のことで苦しんでいますから、私たちはイエス様を喜ばせるために、人々を褒め、楽しみ、幸せでいましょう。それによってイエス様は喜びます。今年は特別にそれを言いたい。

マタイ 25章「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気の見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた」。苦しんでいる人にしてくれたことは、私にしてくれたこと、と。

楽しいクリスマス、人々を喜ばせること…、それを見るイエス様は喜びます。私たちが喜んでい

る時にイエス様は喜びます。私たちが痛みを感じている時にイエス様は痛みを感じています。愛は自分と相手をついにします。相手の喜びが私の喜びになり、相手の痛みが私の痛みになります。このことを教えるために神は人間となりました。神は全ての人と同じ親の心をもって、私たちの喜びと痛みを感じておられます。今年のクリスマスは特に互いに喜びを味わい、分かち合いましょ



山口教会との出会いの中で



外川 直見 神父

山口教会の皆さん、主のご降誕おめでとうございます。
皆さんと別れて半年。しかし、防府はすぐ隣の町ですから、ときどき帰ってきて車を止めておしゃべりをしたりしています。山口教会には3年3カ月の在籍でした。山口教会に来たのは、2020年の聖週間、コロナが猛威を振るい始めた頃で、私が東京から来たため、皆さんと話すことはばかれる時期でした。聖週間の後すぐに教会活動が自粛になりました。

仕方がないので、一ノ坂川沿いや瑠璃光寺やサビエル公園などを散歩しました。徐々に自粛は緩和されましたが、教会活動が自由になったのは今年の春、今から教会活動に、と思ったときに転勤の辞令が下りました。こんな訳で、山口教会の皆さんとの交わり、教会活動への参加は消化不良に終わりました。しかし、中でもミサの後の交流、聖書研究会や病人奉仕、キッズルームなどのいろいろな活動に参加して、教会活動になじんできた3年3カ月でした。

私は以前学校教育の分野で働いていました。その40年の間に、姉妹校4校の間で4度転勤を経験しました。その度にそれまで働いた学校での活動や生徒保護者方との交わりに、大きな心残りを感じながら新しい学校に移動しました。神のみ旨を見出すことがときどき難しく感じました。しかし、次の学校で働き始めると充実した世界が新たに開け、心の広がりを感じてくるのでした。それだけでなく、休暇時期に以前の学校を訪問すると、活動していた世界がそのまま残っており、もとの学校での豊かさと現在の学校での新たな豊かさが重なり広がっていることを感じました。神は新たに移動を求められるたびに、未練や寂しさを感じさせますが、同時に活動の広がり、人々との出会いの広がりも与えて下さるのです。

山口教会にいる間にビリオン神父の伝記を読む機会がありました。ビリオン神父は山口教会にとってとても大切な方です。明治になって最初の教会を米屋町に造りました。また、聖フランシスコ・サビエルの活動拠点であった大道寺の跡を特定しました。山口教会の大恩人です。しかし、辞令を受けて山口に来た時には、心が折れていたと言います。前任地、京都教会で大活躍していた時に、ミドン司教から、山口地方に宣教の場を移すようにと言われました。司教の言葉は感謝と信頼と励ましに満ちた言葉でした。しかし、司教の言葉は神父にとって晴天の霹靂であり、どのように受け止めていいか全くわかりませんでした。神父は山口に移動しましたが、考え続ける中で日本での宣教までがわからなくなり、アメリカでの宣教へと心が揺れてしまいました。横浜からアメリカへの船にのる直前に、非常に親しかったある神父に厳しく叱責されて心が目覚め、山口に戻って来ました。山口教会の恩人でもあるあのビリオン神父の大活躍の陰に、このような心の戦いと苦しみがあったのかと教えられました。130年余りの歴史をもつ山口教会の霊的な礎に、このような先人の深い苦しみと、それを乗り越えた希望に支えられた活躍があったのです。

山口教会の皆様の上にご降誕の主の恵みと平和が豊かに注がれますようにお祈りいたします。

受洗おめでとうございます



さえき しげはる
佐伯 重治

霊名 ヨゼフ



佐伯さんご夫婦

12月25日、主の御降誕の主日に洗礼を受けます。私は仏教の家庭に生まれ、育ちましたが、家内や娘たちはカトリックの洗礼を受けました。家内の勧めもあり洗礼を考えましたが、もうこの年だから(92歳)……とっていました。この度の受洗に際し、アルフレド神父様や外川神父様が数回、我が家に来てくださりお話を聞く度に心を癒され、洗礼への気持ちが確かなものになりました。両神父様に心から厚く御礼申し上げます。家内の信仰を見て、家内に喜んでもらえ、共に歩み、これからの日々を大切に過ごしたいと思います。神様のお恵みとお計らいに深く感謝いたします。皆さまどうぞよろしくお祈りいたします。

七五三の祝福

11月19日(日)主日のミサの中で七五三のお祝いが行われ、出崎日咲乃(ひさの)ちゃんと出崎陽々樹(ひびき)くんが祝福を受けました。どうかこれからも健やかに成長されますように。



出崎さんご家族



クリスマス市セレモニー

12月1日、恒例行事となったクリスマス市セレモニーとやまぐち光誕祭が、今年は献堂25周年記念祭として華やかに開催されました。聖堂内には、お祝いするたくさんの市民の方が集まり、クリスマス市宣言の後、鐘、聖歌、パイプオルガン、主任司祭のお話、ハンドベル、アーティスト5組の歌の奉納と続き、最後は『きずな』の大合唱で締めくくられました。



2日は駐車場でマルシェを開催

ご大切の会

皆様初めまして、「ご大切の会」です。フランシスコ・サビエルが山口での布教の際に「愛」を「ご大切」と説明されたそうで、カンガス神父様はこの言葉をととても気に入っておられることから、会の名前になりました。元々は親子での受洗準備の為の集まりでしたが、受洗の後も、月に1回、子供達の希望するテーマに沿ってご指導いただいています。子供達に寄ったご指導ですが、毎回新たな発見や深く考えさせられることがあります。時には子供達が「先生」となり、聖書の箇所を「生徒」である神父様や母親達に説明してくれます。子供達にはちょっと緊張の時間ですが、自分が説明する事で、より深く聖書に接する機会をいただいていると思います。また、終わった後の神父様からのご褒美（アイス）は子供達のお楽しみです。お世話係の竹本さんにも色々お心遣いをいただき、この会が続いていることに感謝しています。

「ご大切の会」が気になった方はいつでもお声がけください。（平川理恵）



行事予定

2024年 1月 1日（月） 11:00～ 新年のミサ

2月 12日（月） 10:00～レクチャー 14:00～オルガンメディテーション

3月 1日（金）世界祈祷日

今年ほど「正義」という言葉が不快な年もない。人には十人に十様の「正義」があって、隠れ蓑として都合よく使われることもある。荒みの時の「正義」は本当に恐ろしい。けれど、神の義はひとつだから、自己都合の「正義」に陥らぬよう用心しなければと思う。カンガス神父が「今年のクリスマスは特にイエス様を喜ばせて」とおっしゃっている。では具体的に私は何をしてイエスに喜んでもらえるか。現実にはウロウロするに違いないけれど、心はいつも神への志向性を失わないでいたい。（首藤）

発行 山口カトリック教会
発行責任 主任司祭アルフレド・セゴビア
編集 山口カトリック教会 広報部

〒753-0089 山口市亀山4-1
tel. 083-920-1549
hp検索 山口カトリック教会
e-mail xavier@xavier.jp

2023年 12月 25日発行